

# 2020年度10月START Unity講座



12回目

講師：幸田 将伍 (@MagurodonDev)

# 今回の講義の目的

2

- ▶ プログラムを自分で読めるようになる
- ▶ Unityを使って自分が実現したいことをできるようになる
- ▶ 自分一人でもゲームを作成できるレベルになる
- ▶ Unityの活用事例を学び、自分の進路に役立てる
- ▶ 実際のエンジニアがどういった仕事の進め方をしているかを知る
- ▶ ゲーム会社のクライアントエンジニアとして就職できるレベルになる

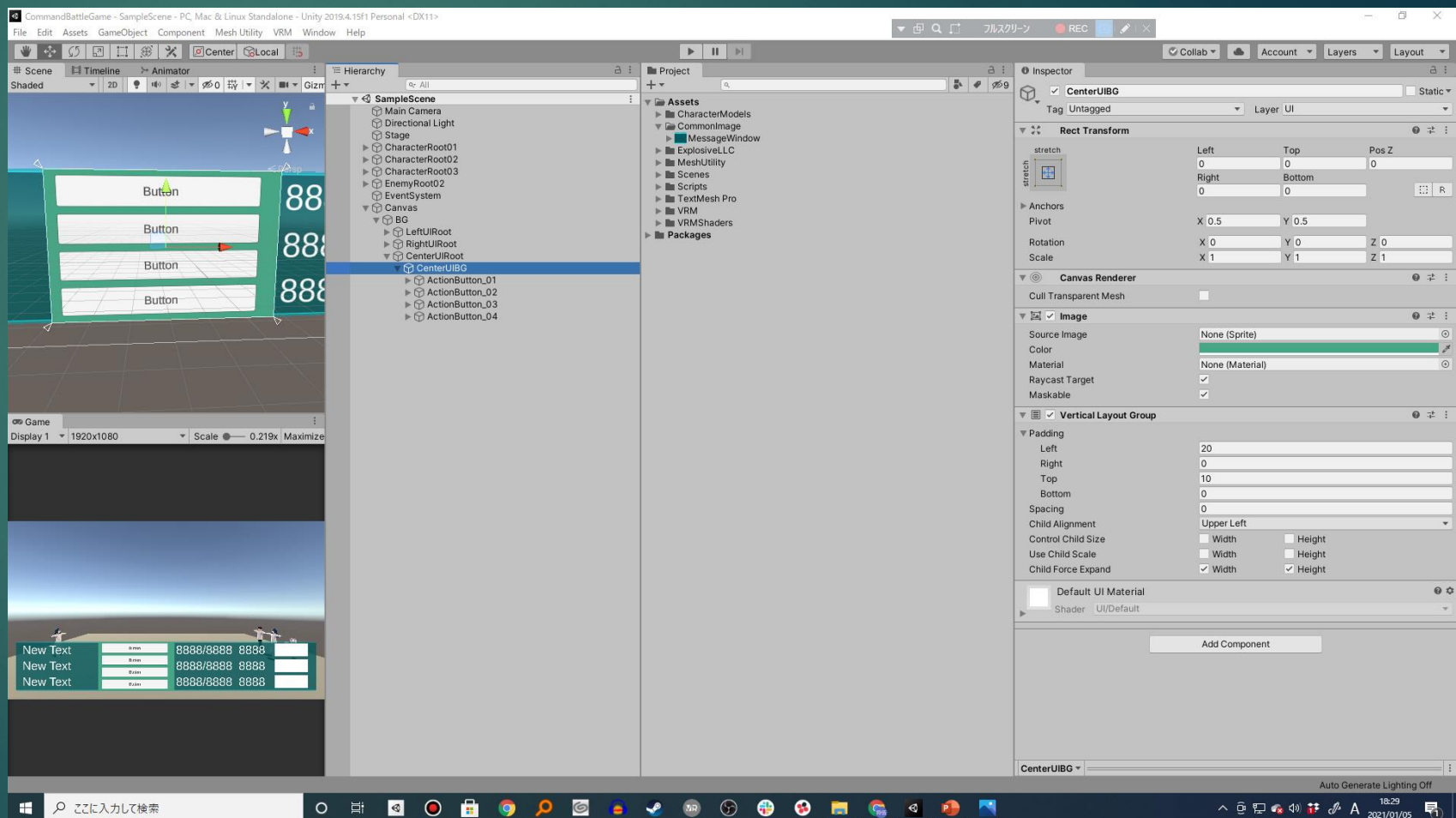
一緒にレベルアップして行きましょう！

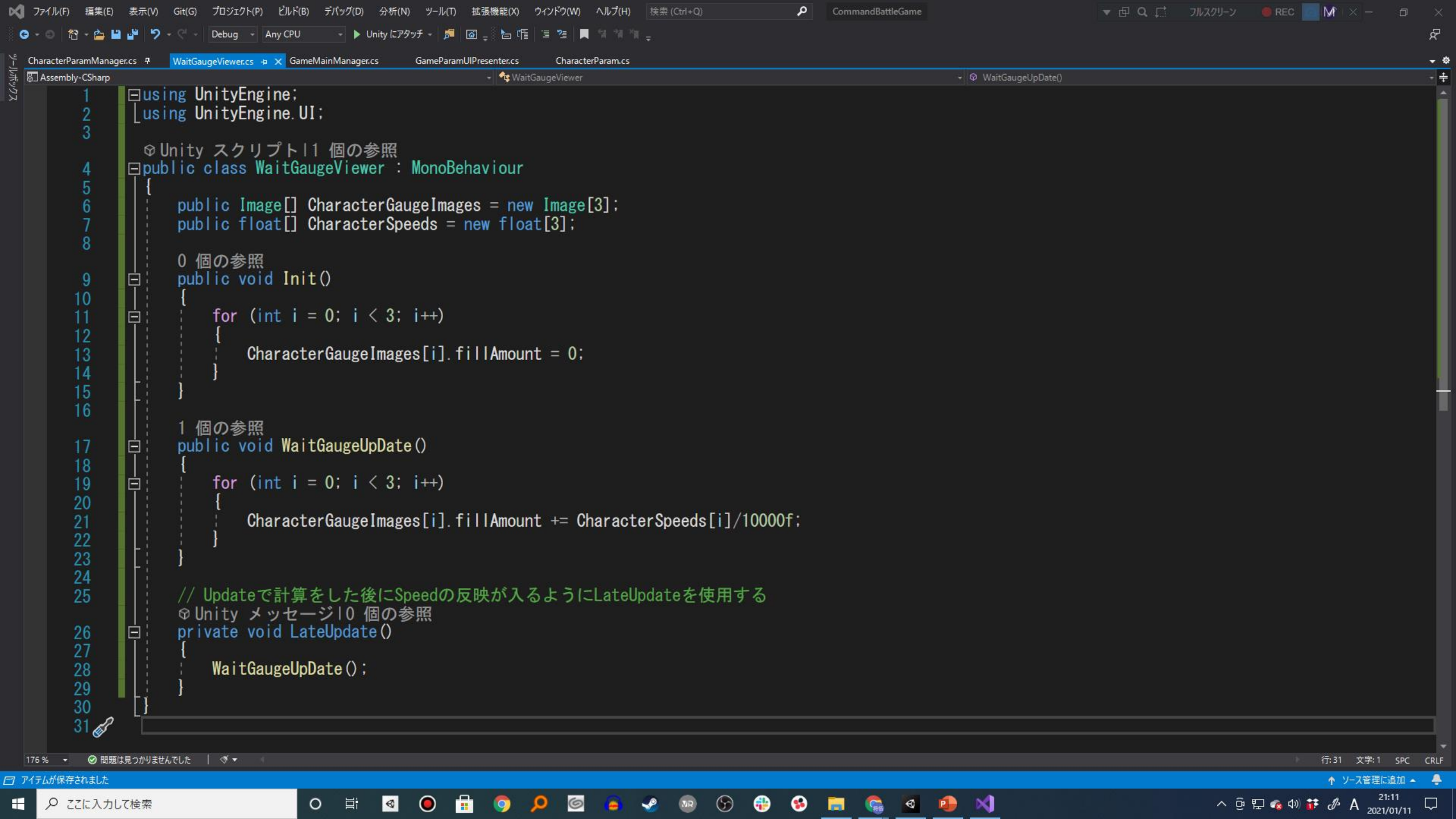
# Unity

## コマンドバトルゲーム

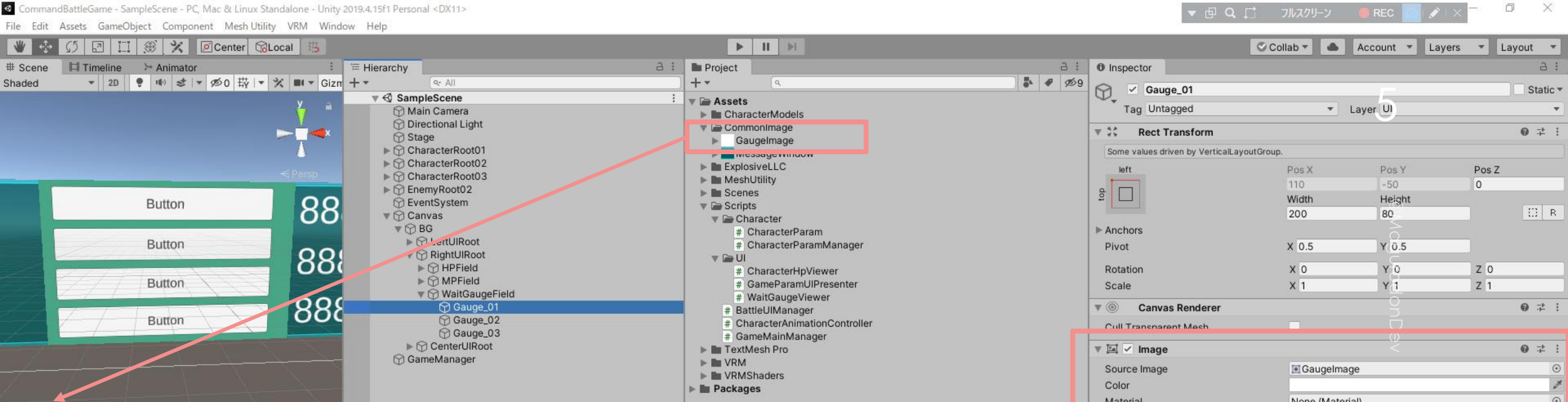
3

- 先週はUIの設定と、キャラクターのパラメーターの設定を行いました。
- 本日は、
- ①行動開始に使用するゲージの表現方法
- ②ゲージが溜まったら選択肢のパネルを表示する実装
- ③キャラクターの行動を決めるボタンによって、行動を起こす実装
- を行っていきます。
- Scripts/UIフォルダ直下にWaitGaugeViewer.csを作成しましょう。









①CommonImageフォルダ内に右クリックからCreateでSprites→Squareを作成し、名前をGaugelImageに変更します

②WaitGaugeField直下の3つのImageにSourceImageとしてGaugelImageを設定します。

③ImageTypeをFilledに設定します。  
※FilledにするとFillAmountの値によって、塗りつぶすことができます。1で全て塗りつぶし、0で表示しないという実装です。  
※ちなみにFill Methodはどのように塗りつぶすかを設定できますので、時間があれば色々試してみてください。

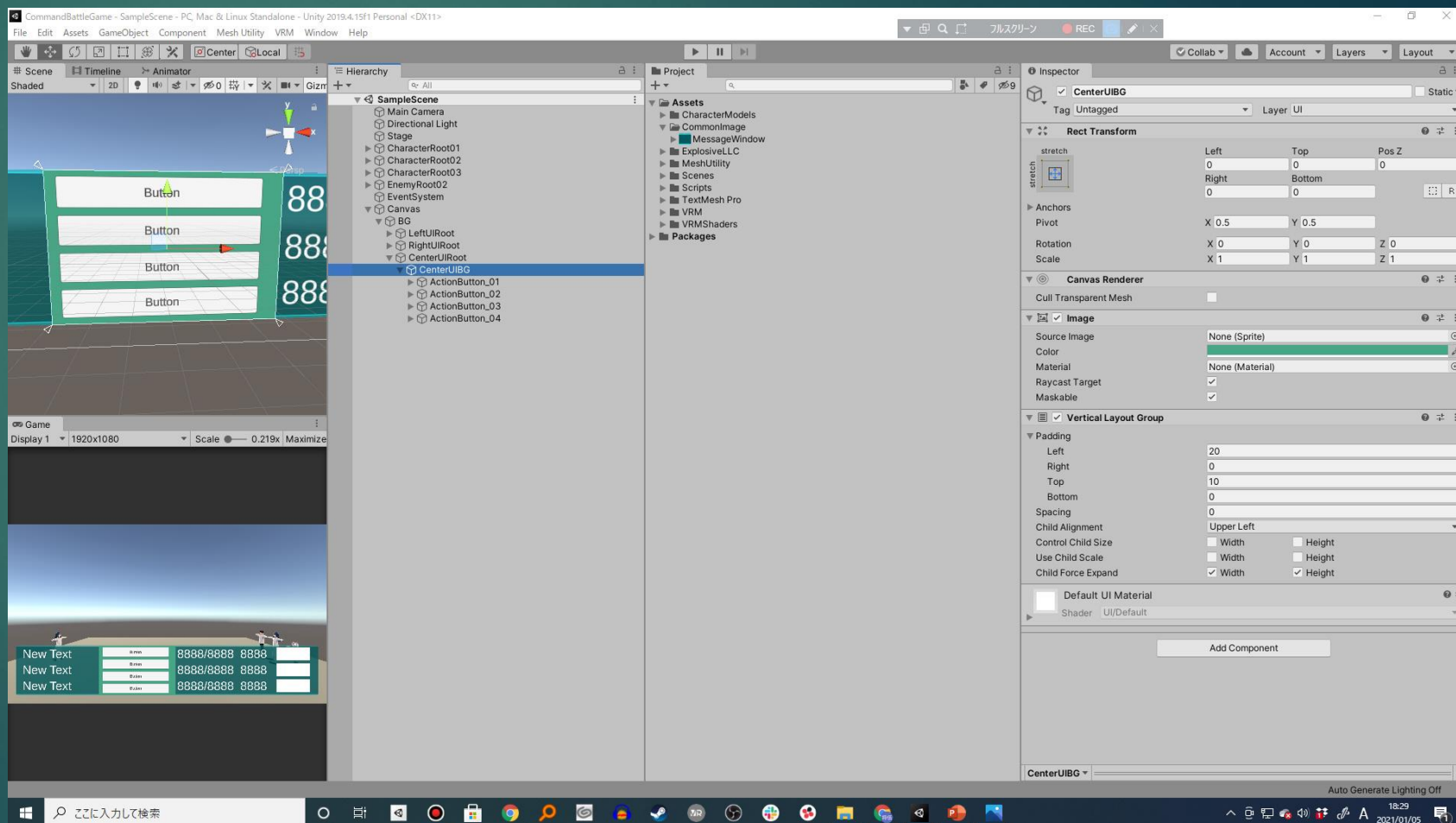
④最後に、WaitGaugeFieldにWaitGaugeViewerをAddし、設定してCharacterGaugelImagesの設定をしてください。

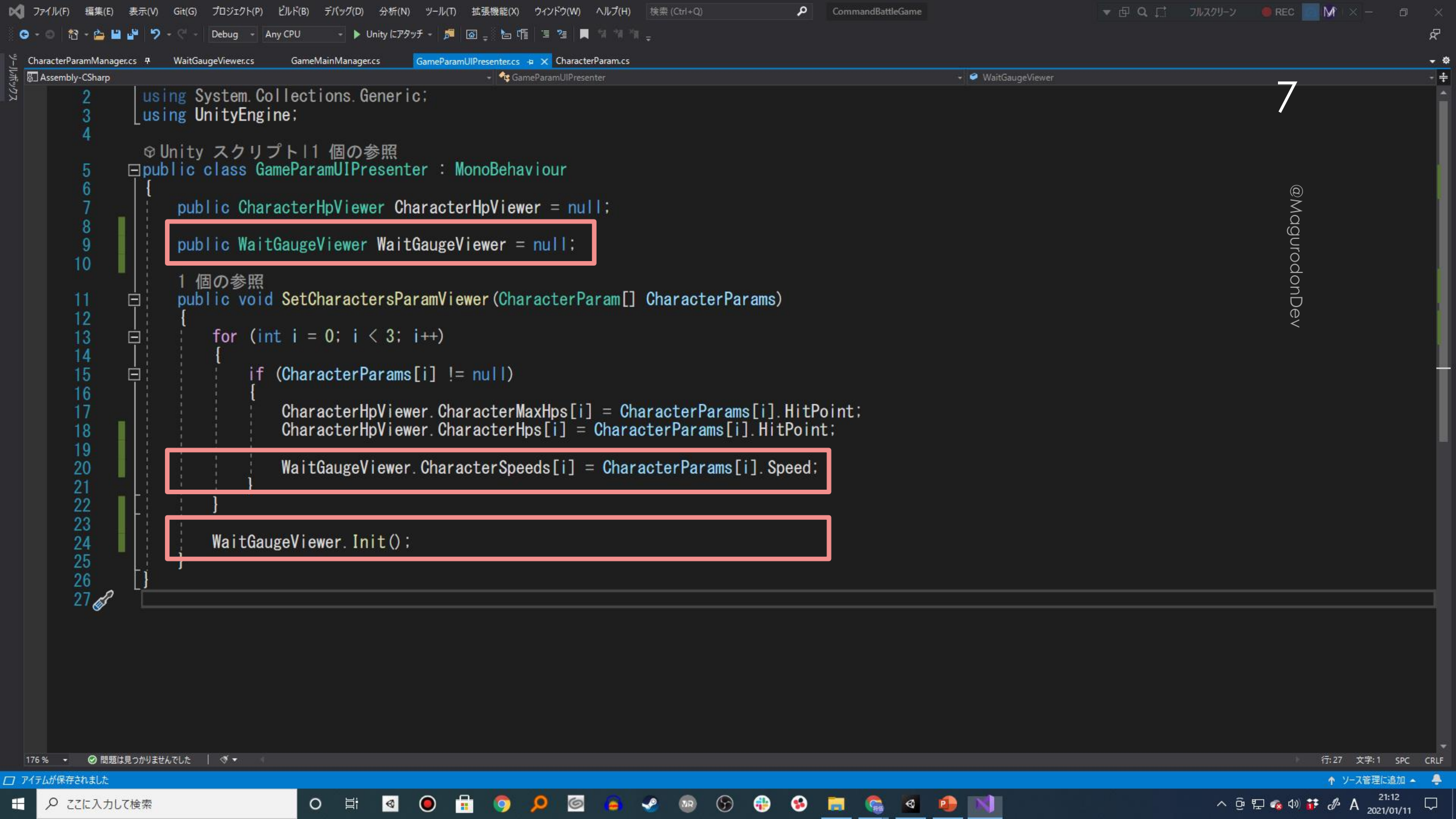
# Unity

## コマンドバトルゲーム

6

- ではキャラクターのSpeedを設定していきます。
- 試しにAttackerのSpeedを適当に編集して、120とかにしてみてください。
- GameParamUIPresenter.csの修正を行います。





@MagurodonDev

7

```
2 using System.Collections.Generic;
3 using UnityEngine;
4
5 Unity スクリプト | 1 個の参照
6 public class GameParamUIPresenter : MonoBehaviour
7 {
8     public CharacterHpViewer CharacterHpViewer = null;
9     public WaitGaugeViewer WaitGaugeViewer = null;
10
11     1 個の参照
12     public void SetCharactersParamViewer (CharacterParam[] CharacterParams)
13     {
14         for (int i = 0; i < 3; i++)
15         {
16             if (CharacterParams[i] != null)
17             {
18                 CharacterHpViewer.CharacterMaxHps[i] = CharacterParams[i].HitPoint;
19                 CharacterHpViewer.CharacterHps[i] = CharacterParams[i].HitPoint;
20                 WaitGaugeViewer.CharacterSpeeds[i] = CharacterParams[i].Speed;
21             }
22         }
23
24         WaitGaugeViewer.Init();
25     }
26 }
27
```

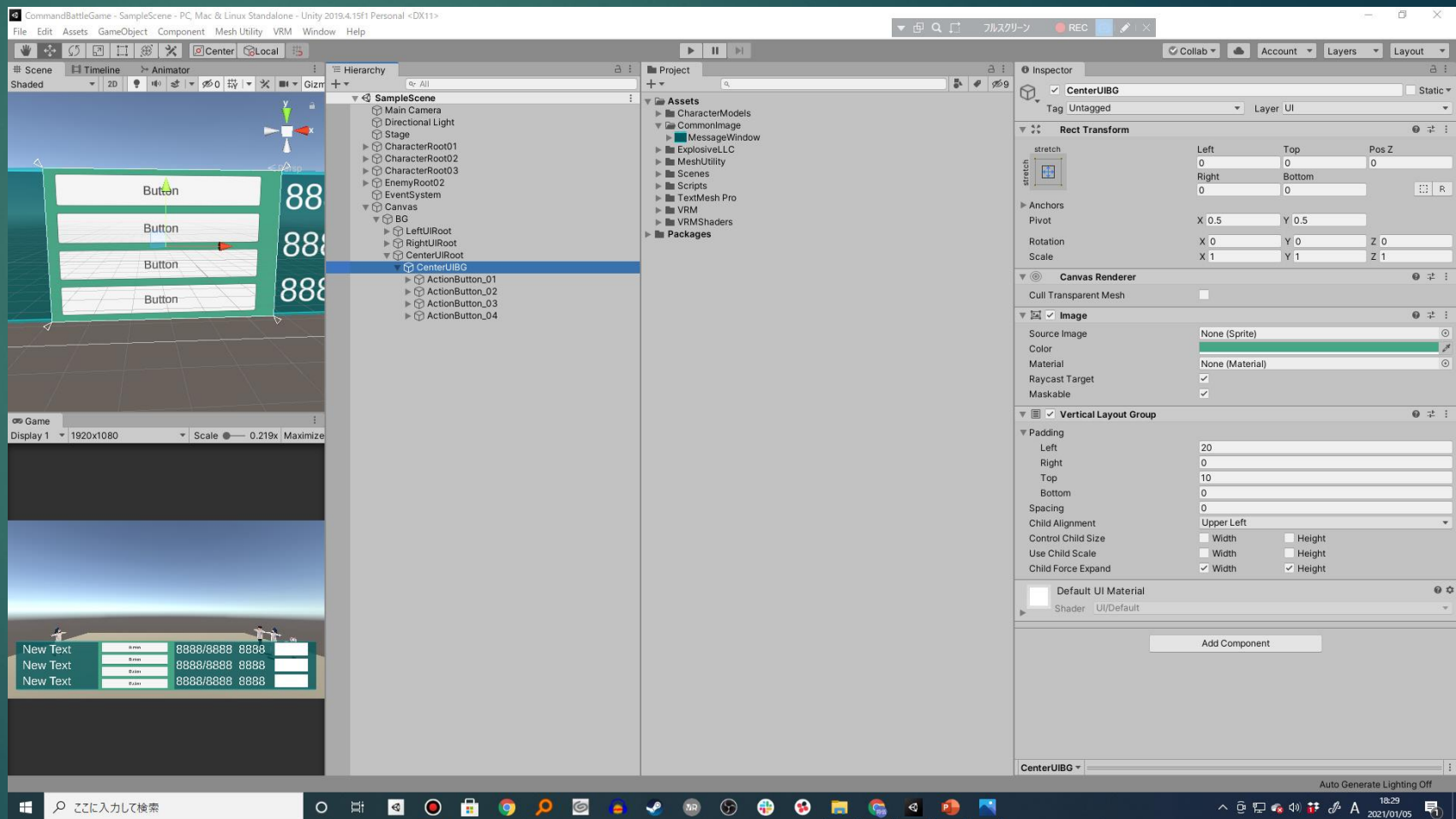


# Unity

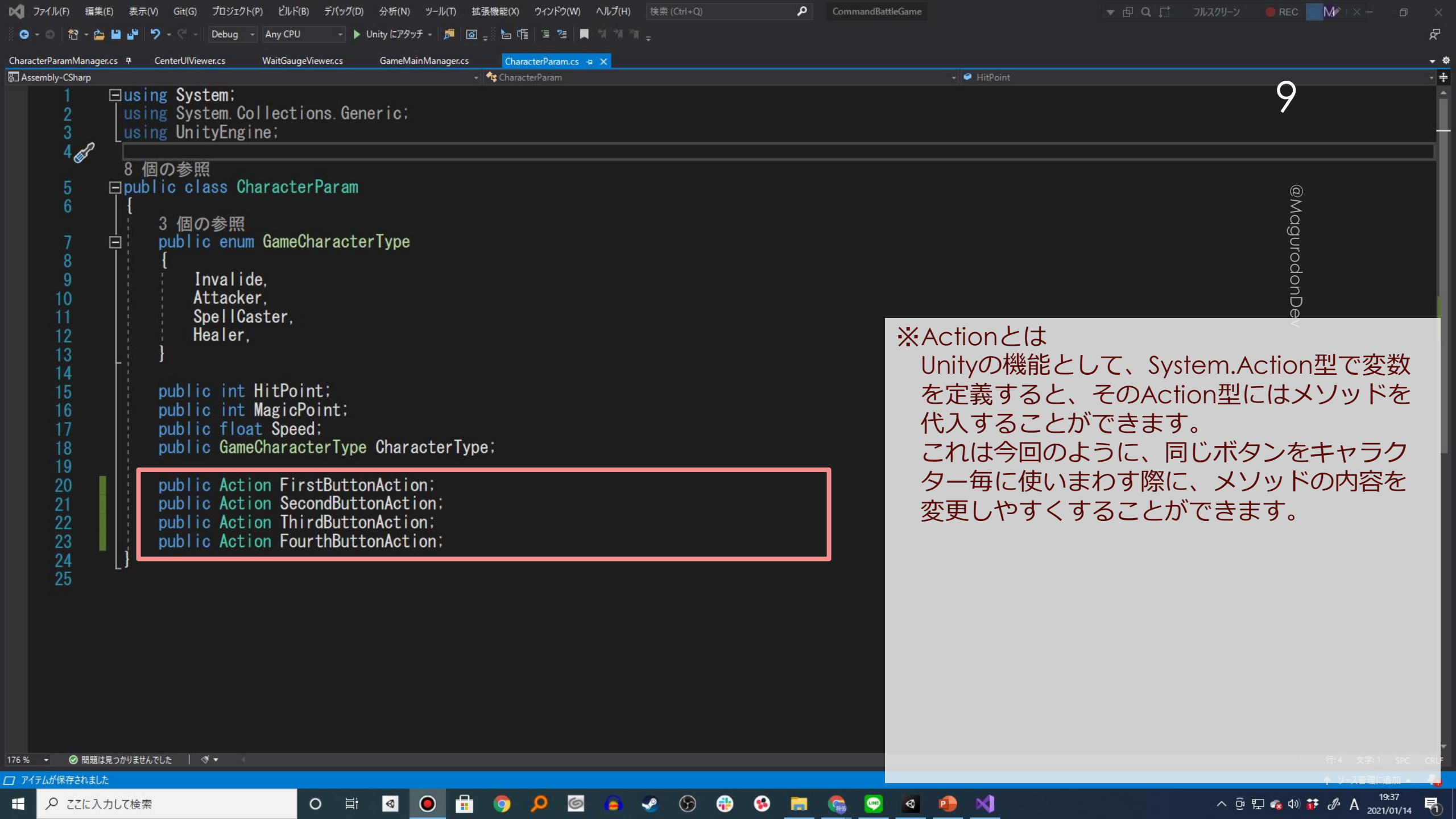
## コマンドバトルゲーム

8

- GameParamUIPresenterにWaitGaugeRootにつけたWaitGaugeViewerを設定して、プレイしてみましょう。
- ゲージが徐々に塗りつぶされていくのが分かると思います。
- 次はCenterUIの制御をしていきます。
- ボタンを押して、キャラクター毎に定義されたアクションを粉うという処理になります。
- Scripts/UIフォルダ直下にCenterUIViewer.csを作成しましょう。
- また、それに合わせて各スクリプトも変更していきましょう。







9

@MagurodonDev

※Actionとは  
Unityの機能として、System.Action型で変数を定義すると、そのAction型にはメソッドを代入することができます。  
これは今回のように、同じボタンをキャラクター毎に使いまわす際に、メソッドの内容を変更しやすくすることができます。

```

1  using System.Collections.Generic;
2  using UnityEngine;
3  using UnityEngine.UI;
4
5  Unity スクリプト | 1 個の参照
6  public class CenterUIView: MonoBehaviour {
7
8      public Button[] CharacterActionButtons = new Button[4];
9      public bool CenterUIVisible = false;
10
11      1 個の参照
12      public bool CheckCenterUIVisible(float gaugeRate)
13      {
14          return gaugeRate >= 1f;
15      }
16
17      1 個の参照
18      public void SetCenterUIVisible(bool active)
19      {
20          this.gameObject.SetActive(active);
21      }
22
23      1 個の参照
24      public void SetCharacterActionButtons(CharacterParam characterParam)
25      {
26          for (int i = 0; i < CharacterActionButtons.Length; i++)
27          {
28              CharacterActionButtons[i].onClick.RemoveAllListeners();
29
30              CharacterActionButtons[0].onClick.AddListener(() => characterParam.FirstButtonAction());
31              CharacterActionButtons[1].onClick.AddListener(() => characterParam.SecondButtonAction());
32              CharacterActionButtons[2].onClick.AddListener(() => characterParam.ThirdButtonAction());
33              CharacterActionButtons[3].onClick.AddListener(() => characterParam.FourthButtonAction());
34          }
35      }
36  }

```

## ※ラムダ式

このスクリプトで初めて見る記述方法があると思います。

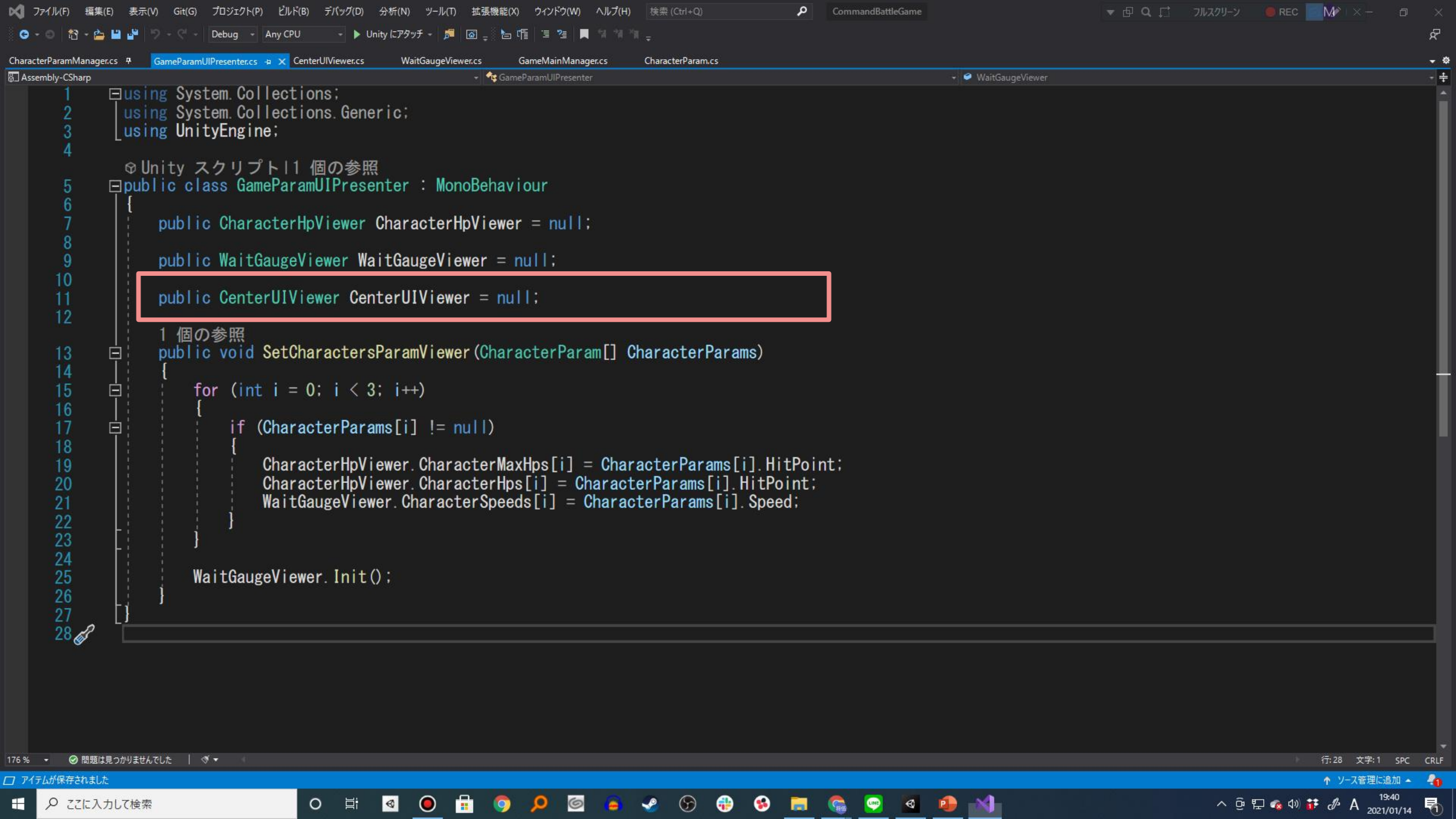
Hogehoge(()=>{Hogehoge()});

のように、メソッドの中に、コールバックとしてメソッドを定義する時に使用します。

今回は、ボタンを押した時に実行されるメソッドをCharacterParamで定義されたものを使うことにしました。

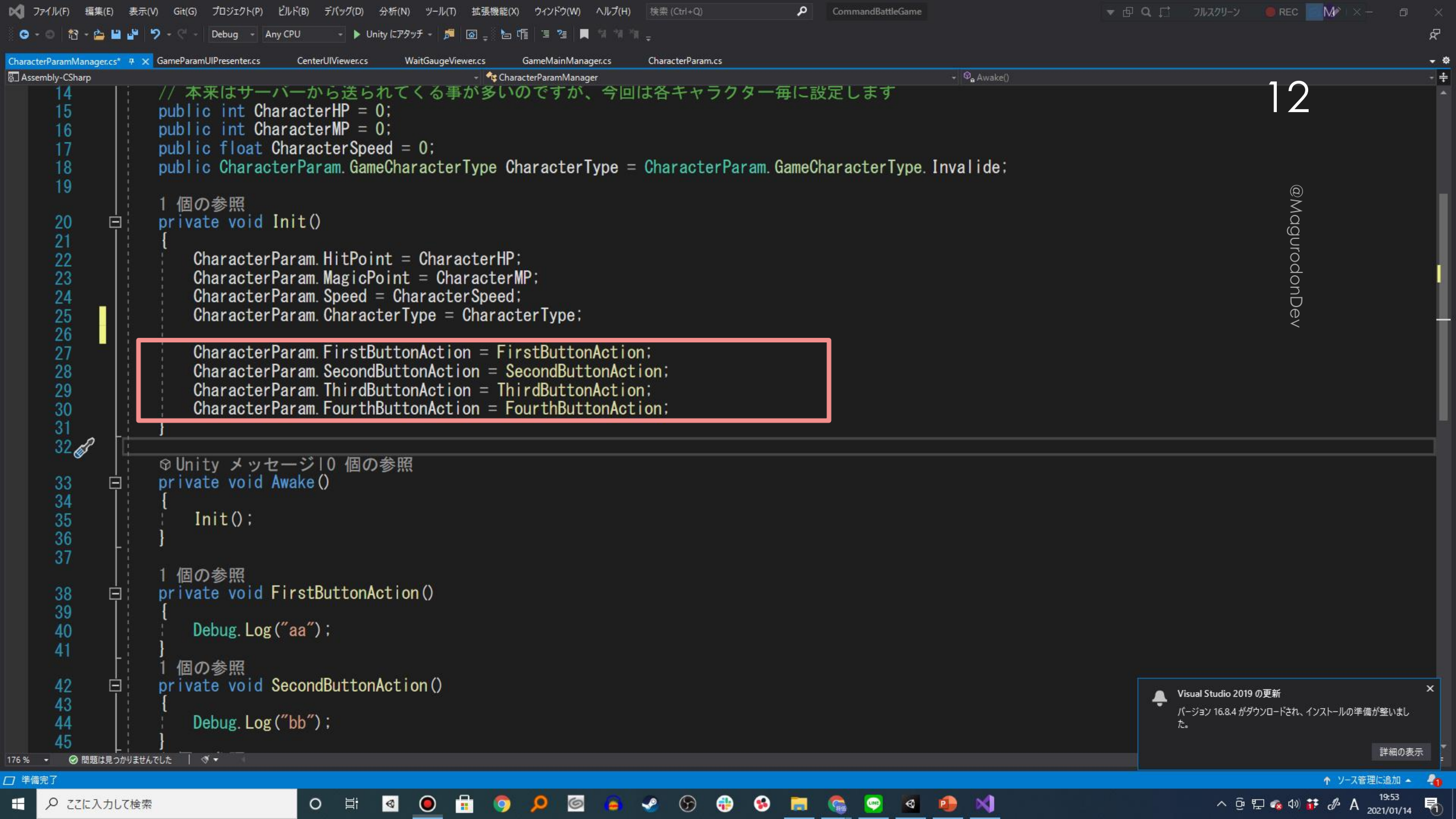
## ※コールバックとは

Unityには様々なイベントがあり、それに対しての反応のことです。例えばボタンを押す、離す、押し続ける等、ユーザーの操作によって引き起こされる挙動のことです。

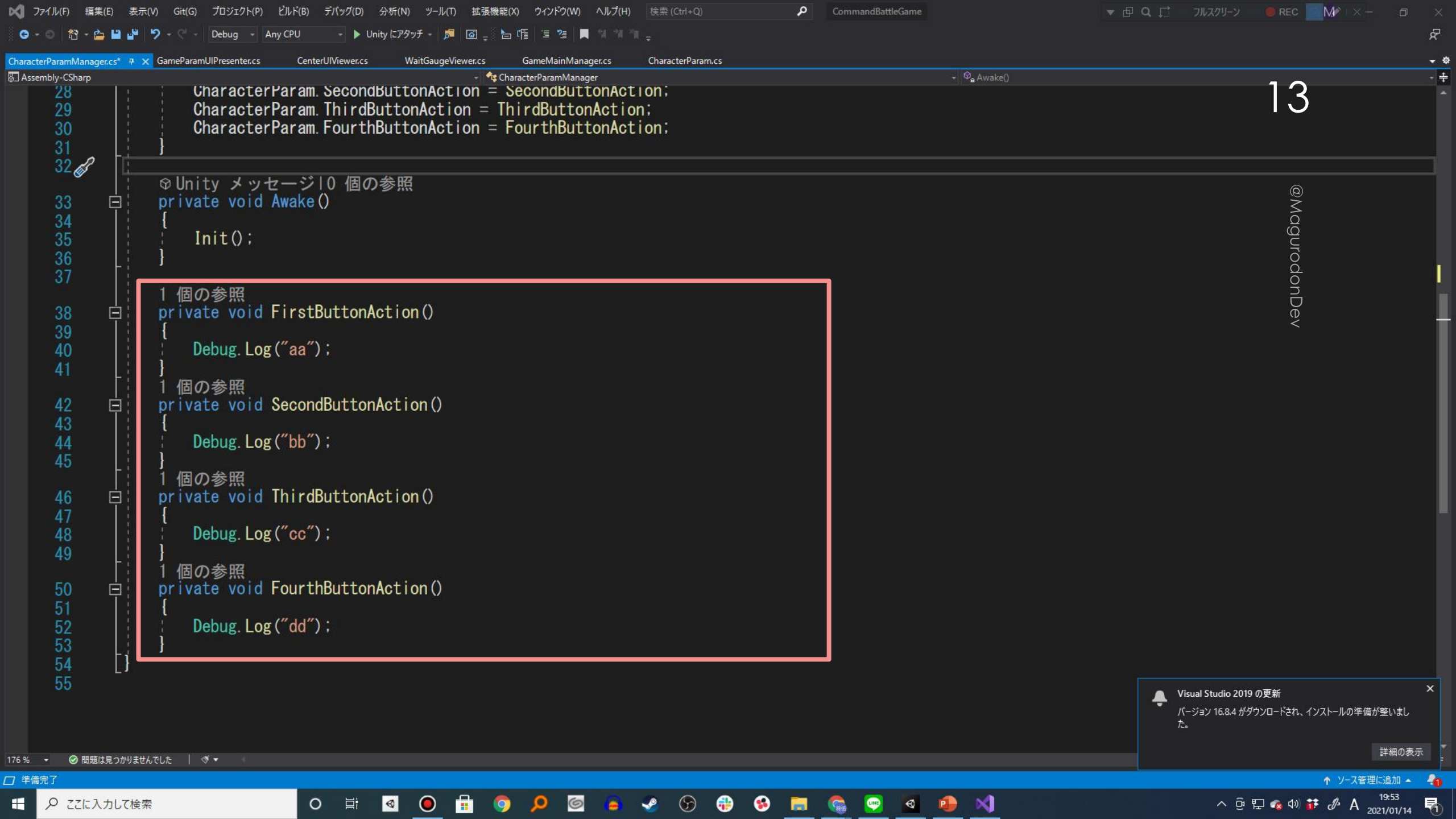


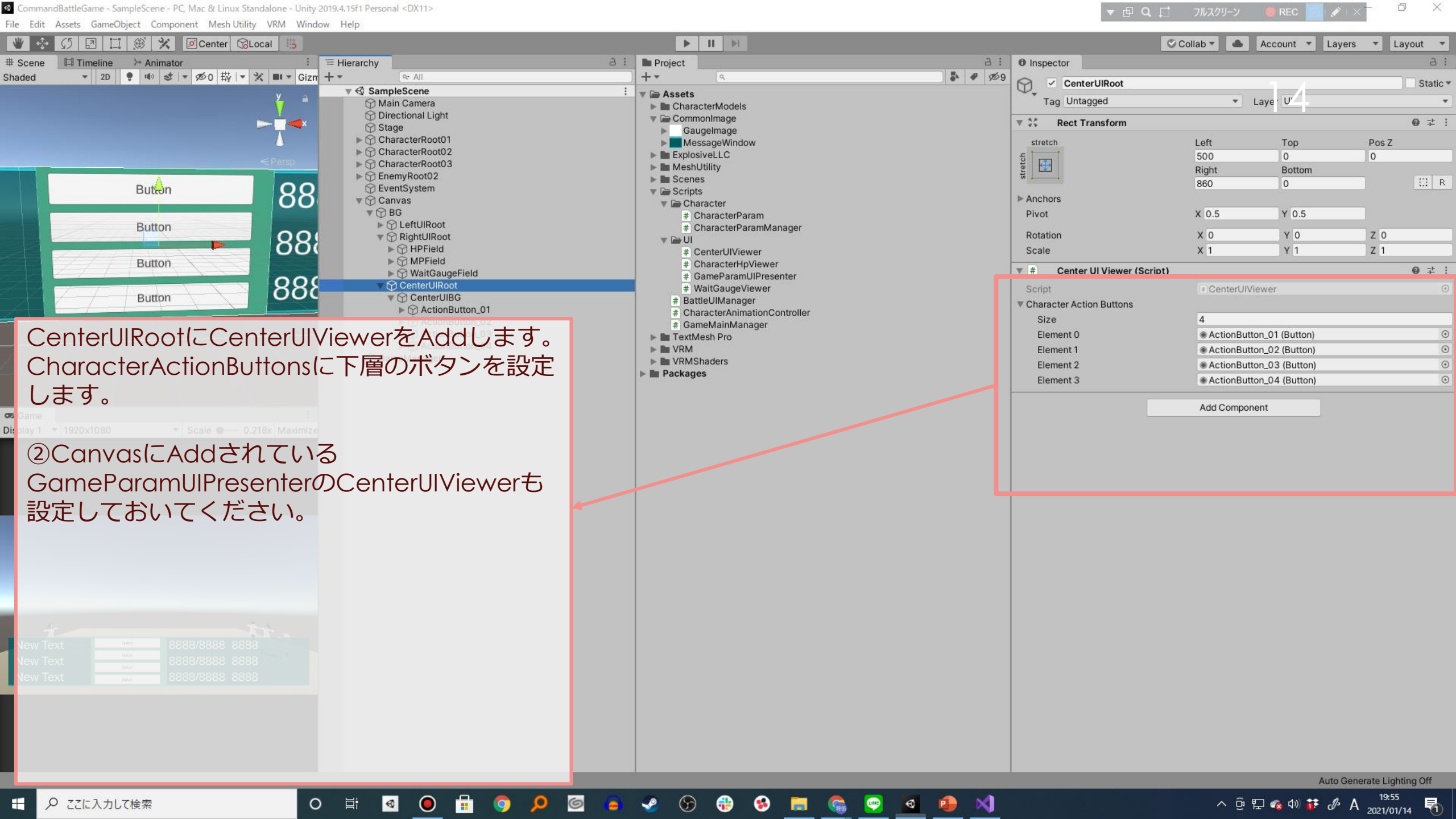
```
1 using System.Collections;
2 using System.Collections.Generic;
3 using UnityEngine;
4
5 Unity スクリプト | 1 個の参照
6 public class GameParamUIPresenter : MonoBehaviour
7 {
8     public CharacterHpViewer CharacterHpViewer = null;
9     public WaitGaugeViewer WaitGaugeViewer = null;
10    public CenterUIViewer CenterUIViewer = null;
11
12    1 個の参照
13    public void SetCharactersParamViewer (CharacterParam[] CharacterParams)
14    {
15        for (int i = 0; i < 3; i++)
16        {
17            if (CharacterParams[i] != null)
18            {
19                CharacterHpViewer.CharacterMaxHps[i] = CharacterParams[i].HitPoint;
20                CharacterHpViewer.CharacterHps[i] = CharacterParams[i].HitPoint;
21                WaitGaugeViewer.CharacterSpeeds[i] = CharacterParams[i].Speed;
22            }
23        }
24
25        WaitGaugeViewer.Init();
26    }
27 }
28
```









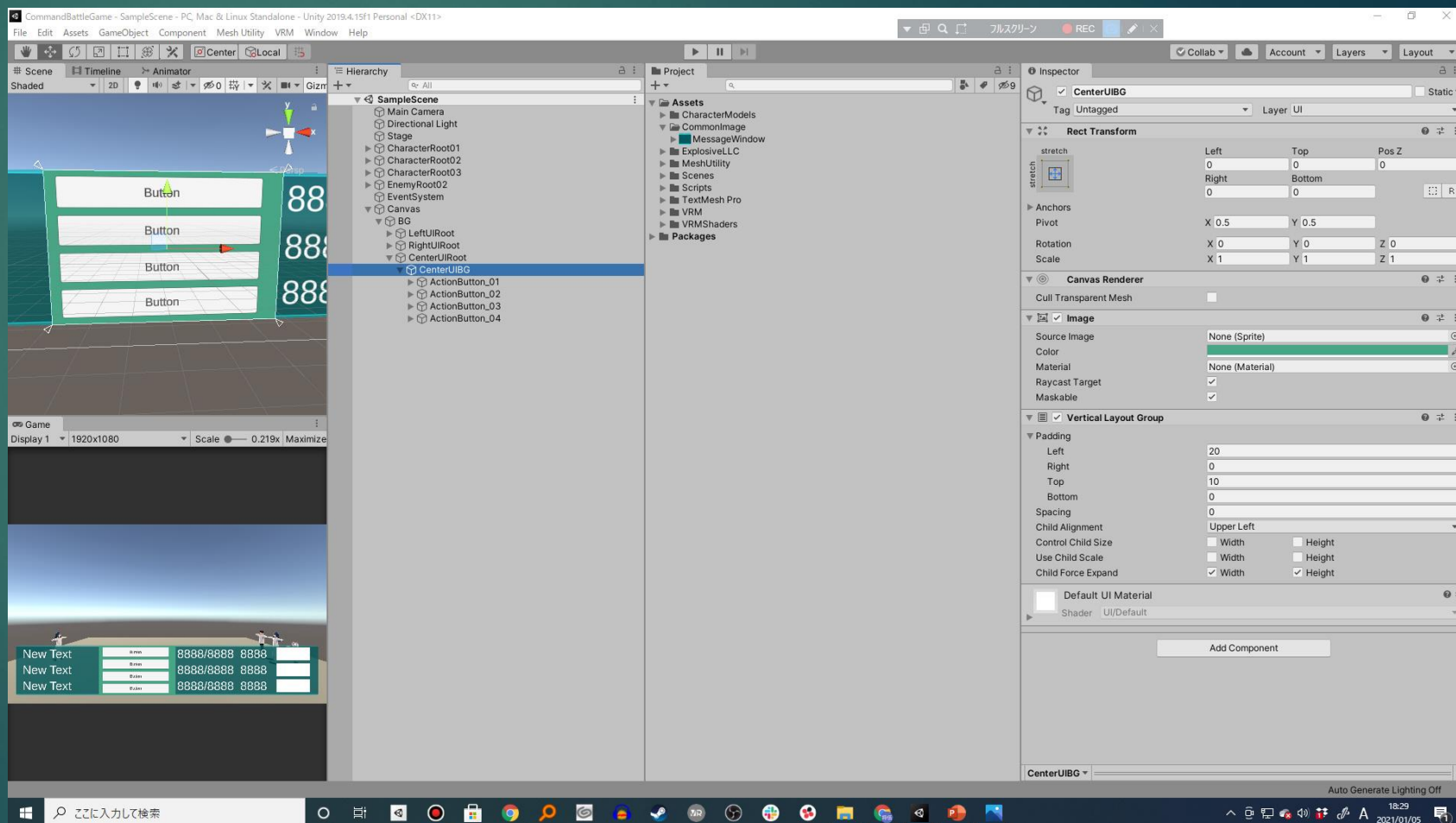


CenterUIRootにCenterUIViewerをAddします。  
CharacterActionButtonsに下層のボタンを設定  
します。

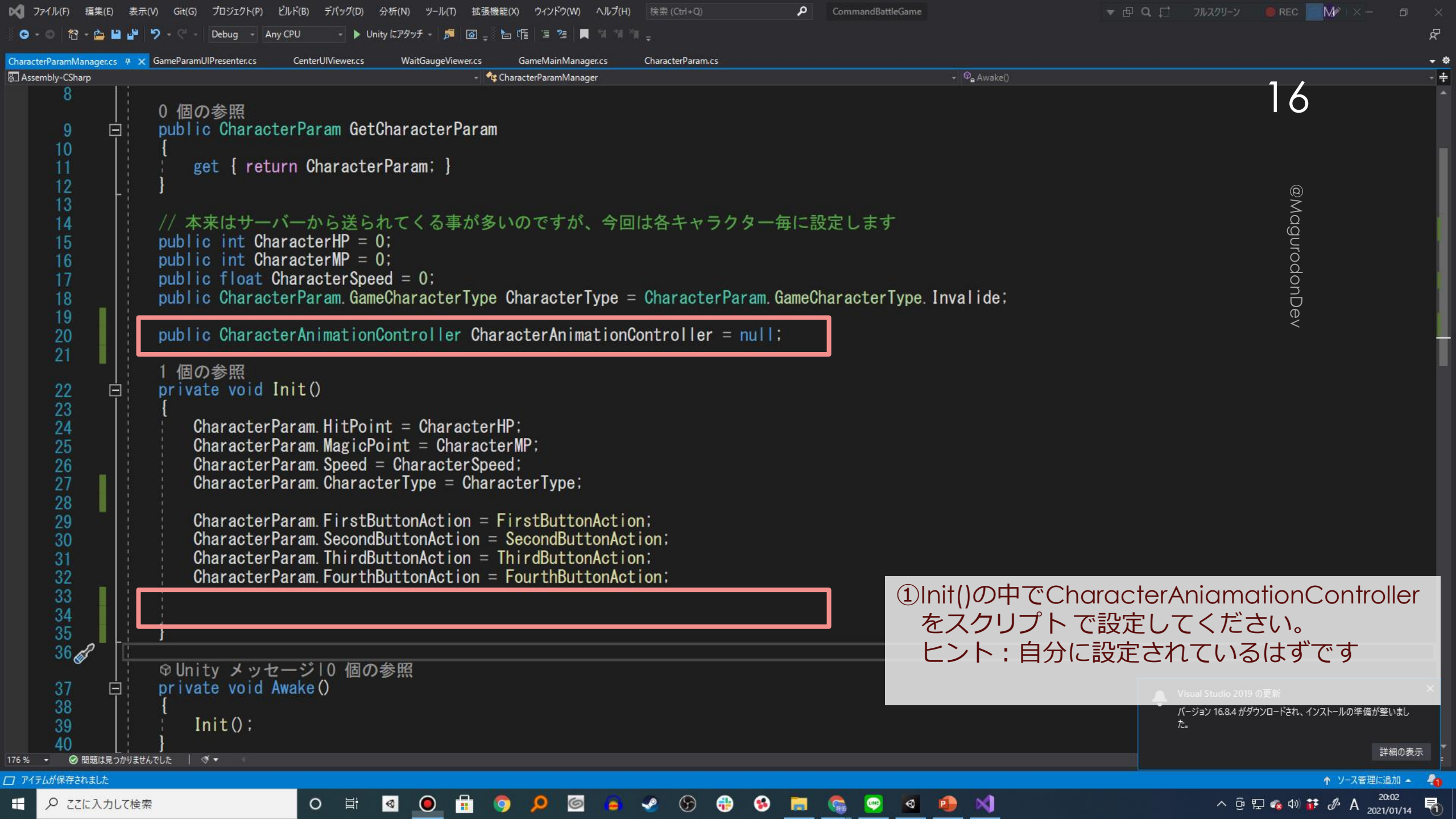
②CanvasにAddされている  
GameParamUIPresenterのCenterUIViewerも  
設定しておいてください。

## コマンドバトルゲーム

- これで最低限の実装は終了しました。
- ただ、CenterUIViewerのSetCharacterActionButtonsをまだ呼んでいないので、呼ぶところを設定します。
- 例えばAttackerの行動を読んでみましょう。
- CharacterParamManagerでまずは一番上のボタンを押すと攻撃できるようにしましょう。
- その後、GameMainManagerで実際に挙動を実装して確認します。







16

@MagurodonDev

0 個の参照

```
public CharacterParam GetCharacterParam
{
    get { return CharacterParam; }
}
```

// 本来はサーバーから送られてくる事が多いのですが、今回は各キャラクター毎に設定します

```
public int CharacterHP = 0;
public int CharacterMP = 0;
public float CharacterSpeed = 0;
public CharacterParam.GameCharacterType CharacterType = CharacterParam.GameCharacterType.Invalid;
```

```
public CharacterAnimationController CharacterAnimationController = null;
```

1 個の参照

```
private void Init()
{
    CharacterParam.HitPoint = CharacterHP;
    CharacterParam.MagicPoint = CharacterMP;
    CharacterParam.Speed = CharacterSpeed;
    CharacterParam.CharacterType = CharacterType;

    CharacterParam.FirstButtonAction = FirstButtonAction;
    CharacterParam.SecondButtonAction = SecondButtonAction;
    CharacterParam.ThirdButtonAction = ThirdButtonAction;
    CharacterParam.FourthButtonAction = FourthButtonAction;
```

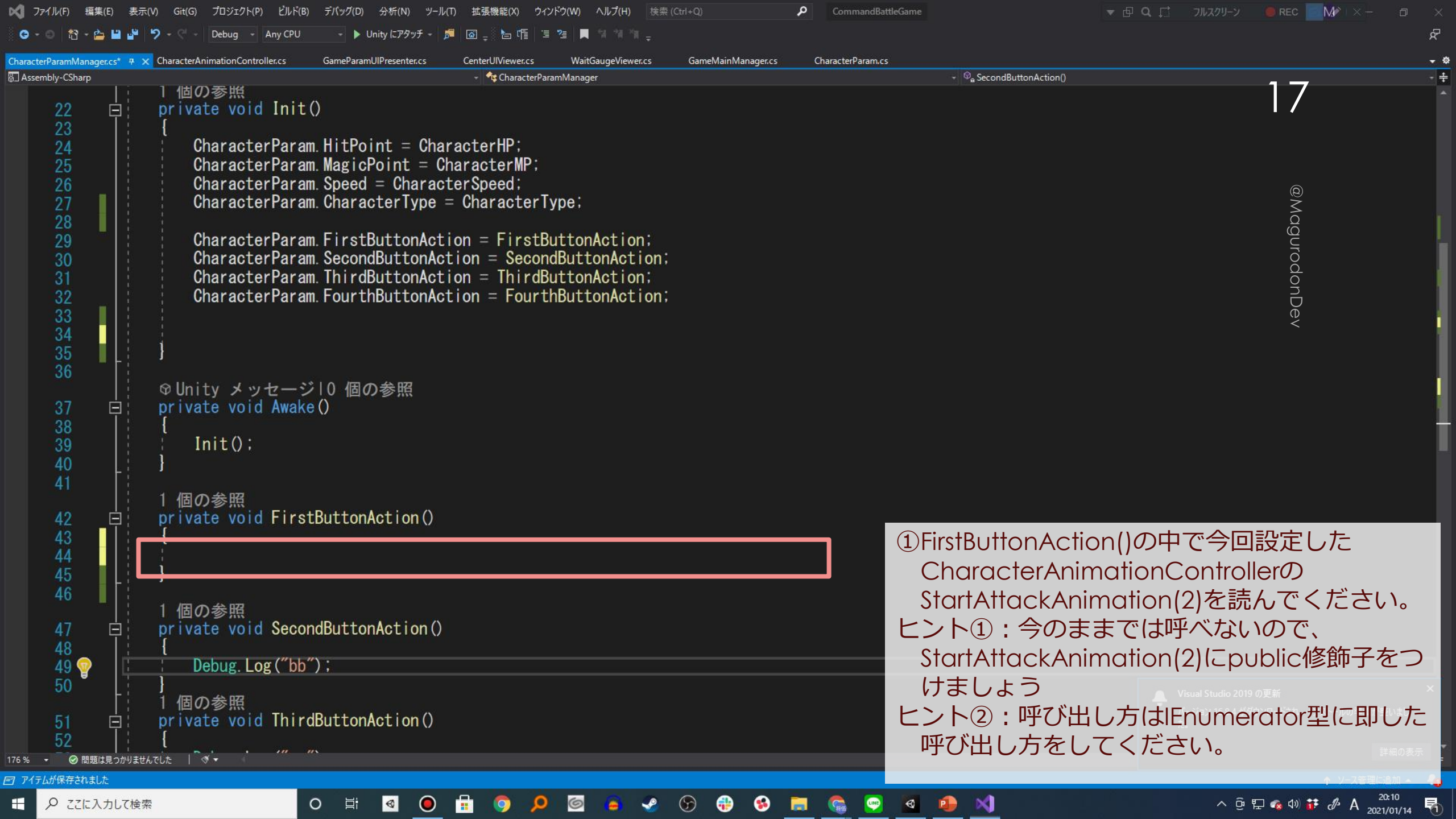
①Init()の中でCharacterAniamationControllerをスクリプトで設定してください。  
ヒント：自分に設定されているはずです

Unity メッセージ 10 個の参照

```
private void Awake()
{
    Init();
}
```

Visual Studio 2019 の更新  
バージョン 16.8.4 がダウンロードされ、インストールの準備が整いました。  
詳細の表示





@MagurodonDev

176 % 問題は見つかりませんでした

アイテムが保存されました

行: 51 文字: 31 SPC CRIF

ソート管理に追加

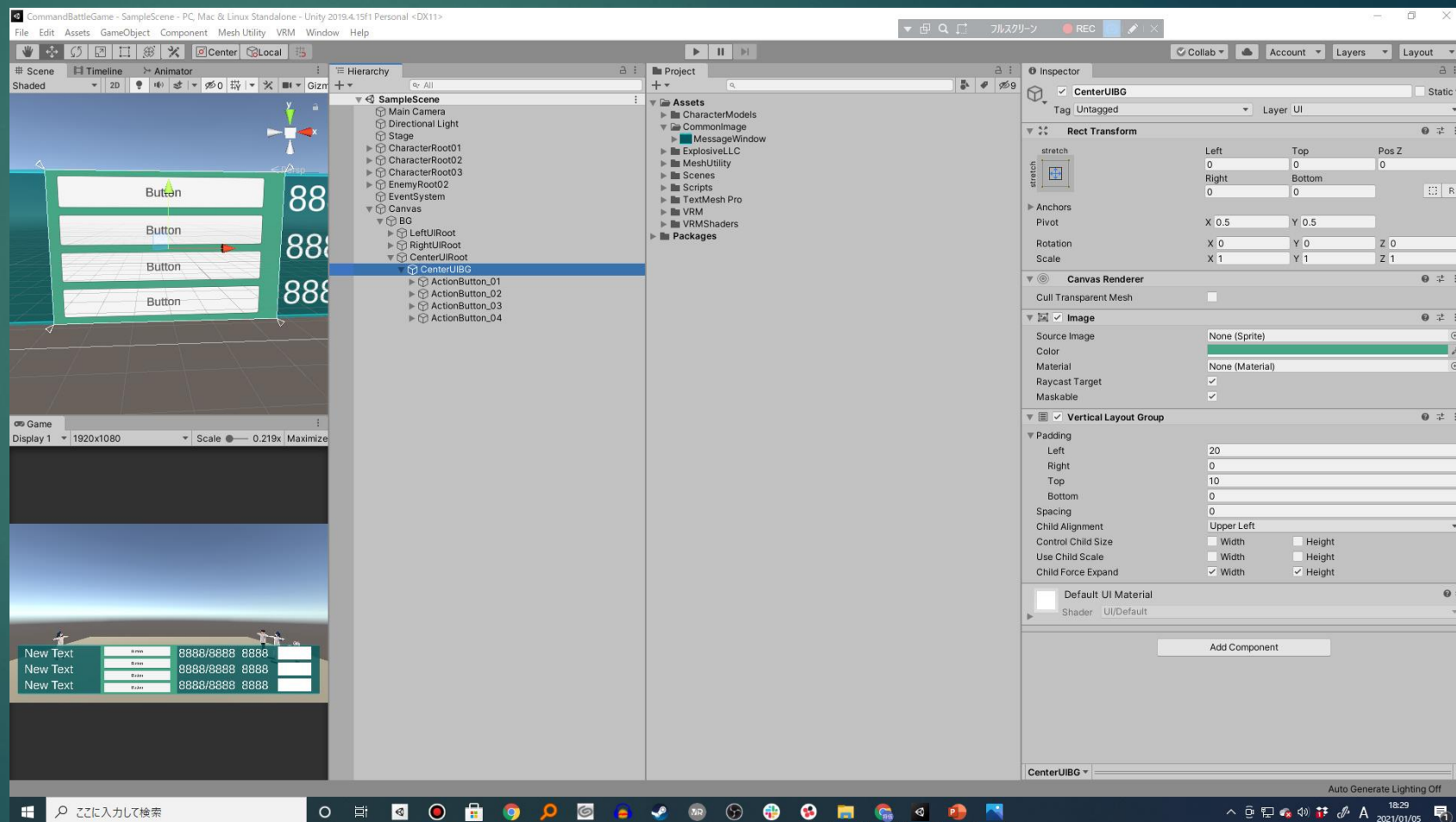
- Windows taskbar showing the Start button, search bar, and various application icons (including File Explorer, Chrome, and communication apps). The system clock displays 20:14 on 2021/01/14.

# Unity

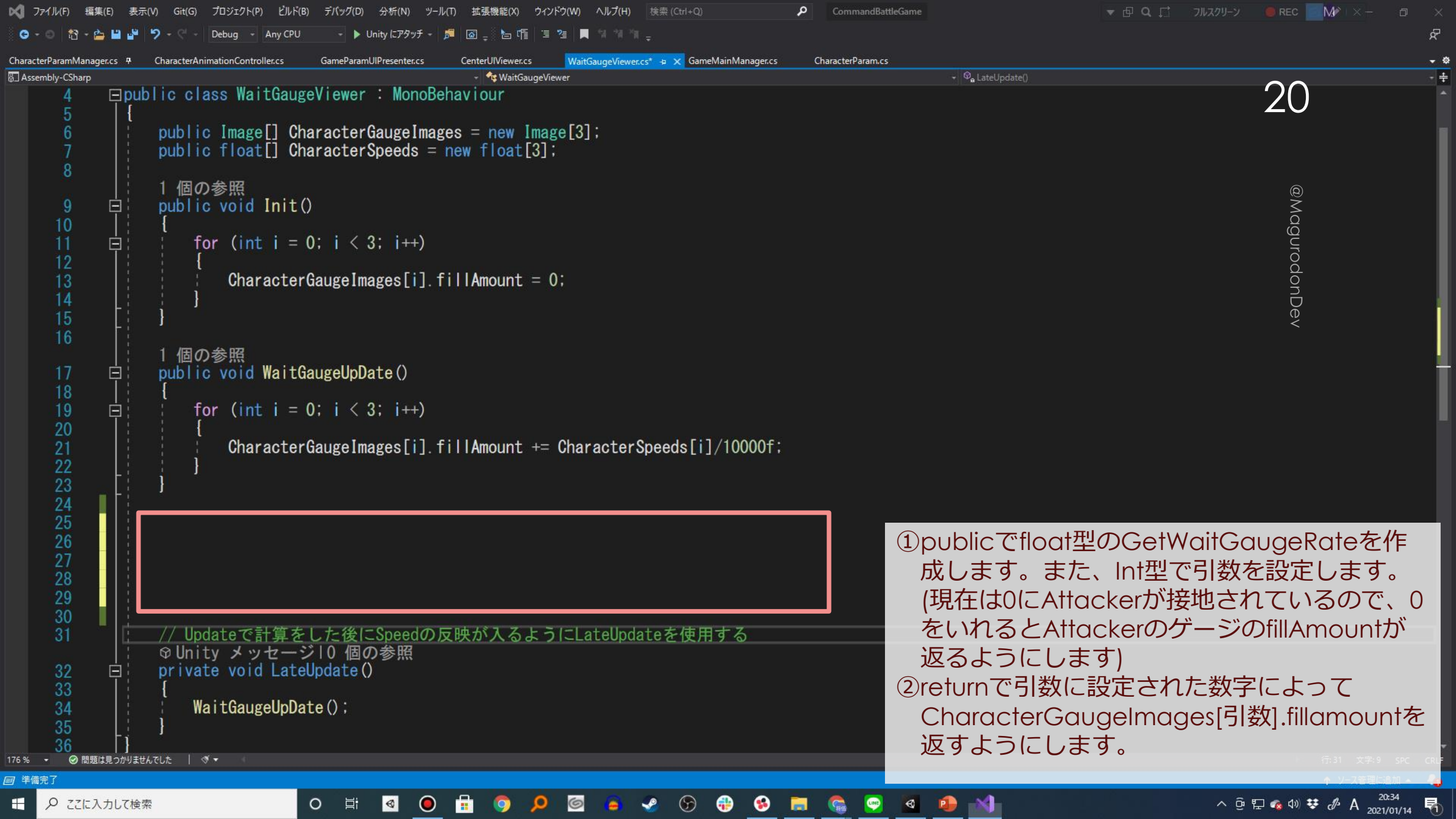
19

## コマンドバトルゲーム

- では実際にゲームをプレイしてみましょう。
- ボタンを押すとAttackerが攻撃のモーションを行う事を確認します。
- ちょっと順番が前後しますが、後はゲージが溜まったら、CenterUIを表示するようにします。
- まず、WaitGaugeViewerの中で現在のキャラクターに設定されているゲージの埋まり具合をゲットしましょう。
- その後、GameMainManagerの中で設定します。







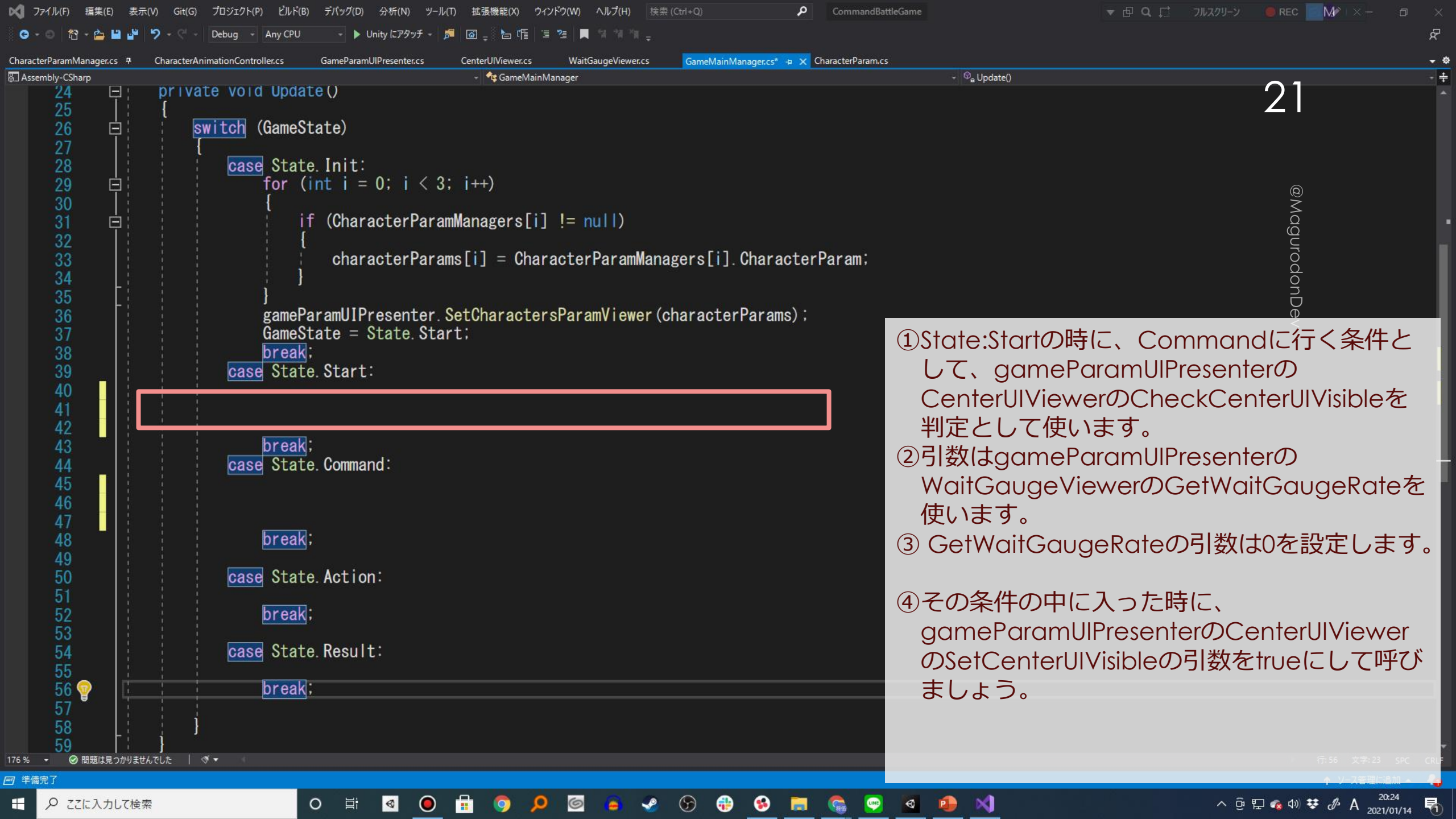
20

@MagurodonDev

①publicでfloat型のGetWaitGaugeRateを作成します。また、Int型で引数を設定します。  
(現在は0にAttackerが接地されているので、0をいれるとAttackerのゲージのfillAmountが返るようにします)

②returnで引数に設定された数字によって  
CharacterGaugelImages[引数].fillamountを返すようにします。





21

@MagurodonDev

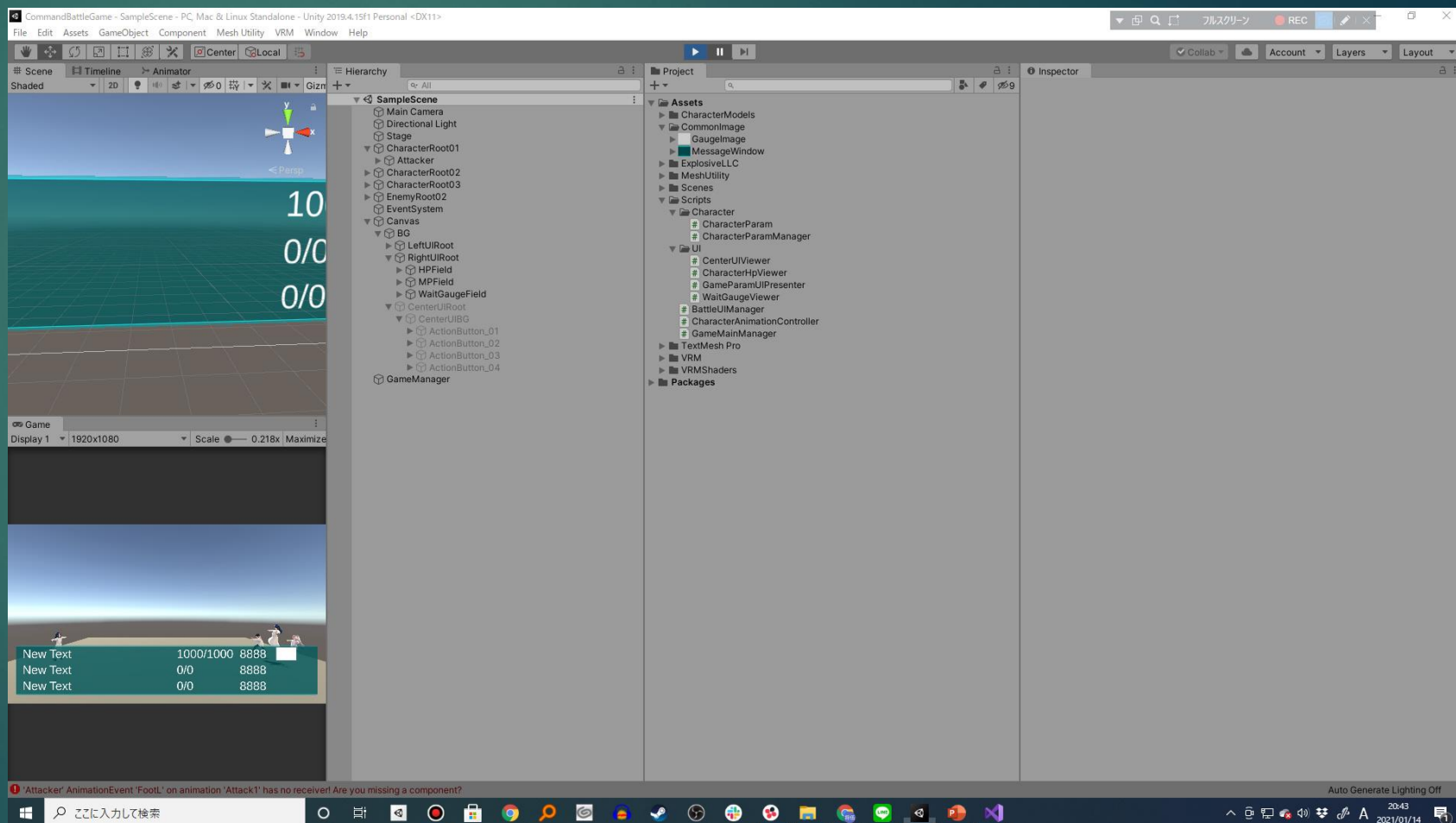
- ①State:Startの時に、Commandに行く条件として、gameParamUIPresenterのCenterUIViewerのCheckCenterUIVisibleを判定として使います。
- ②引数はgameParamUIPresenterのWaitGaugeViewerのGetWaitGaugeRateを使います。
- ③ GetWaitGaugeRateの引数は0を設定します。
- ④その条件の中に入った時に、gameParamUIPresenterのCenterUIViewerのSetCenterUIVisibleの引数をtrueにして呼びましょう。

# Unity

22

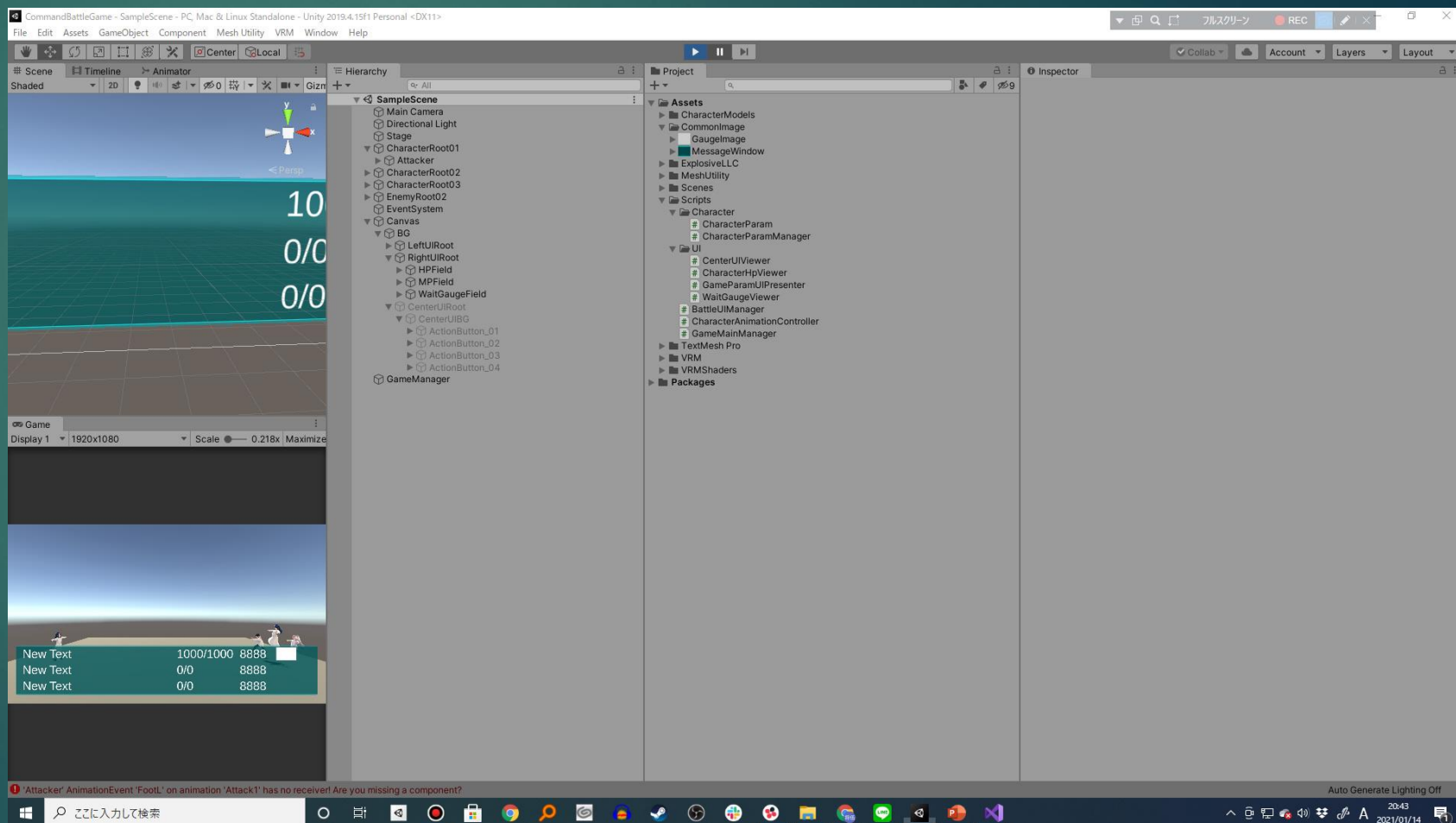
## コマンドバトルゲーム

- では実際にゲームをプレイしてみましょう。
- ゲージの進捗が溜まるまではボタンのUIは表示されず、溜まり切ったら表示されるようになっていると思います。
- もちろん、表示された一番上のボタンを押すと攻撃モーションを発動しますね。



## コマンドバトルゲーム

- 今からですが、ちょっと各人考えていただき、三人のアニメーションを設定できるようにしましょう。
- ①まずは各キャラクターに CharacterParamManager を Addして、パラメーターを設定します。
- ②GameMainManagerの CharacterParamManagersに設定します。
- ③まずここまでで、ゲージが各キャラクターごとに動くかを確認してください。



## コマンドバトルゲーム

- ここからは難題です。
- 宿題となります。
- 来週答え合わせをします。
- ④今、GameMainMangerのState.Commandへの移行は0(Attacker)のゲージレートを取得していますが、これを各キャラクターのうち、一番早く埋まり切ったキャラクターに変更してください。
- ⑤また、一番早く埋まり切ったキャラクターのアニメーションをボタンの一番上で再生するようにしましょう。
- ⑥ボタンを押したらCenterUIRootが消えるようにしてみましょう。

